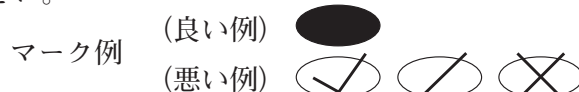


令和8年度（令和7年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）
中学校 高等学校 特別支援学校 中学部 高等部
保健体育

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
 - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○0	○0	○0	○0	○0
●	○1	○1	○1	○1
○2	●	○2	○2	○2
○3	○3	●	○3	○3
○4	○4	○4	●	○4
○5	○5	○5	○5	●

記入例

(受審番号12345の場合)

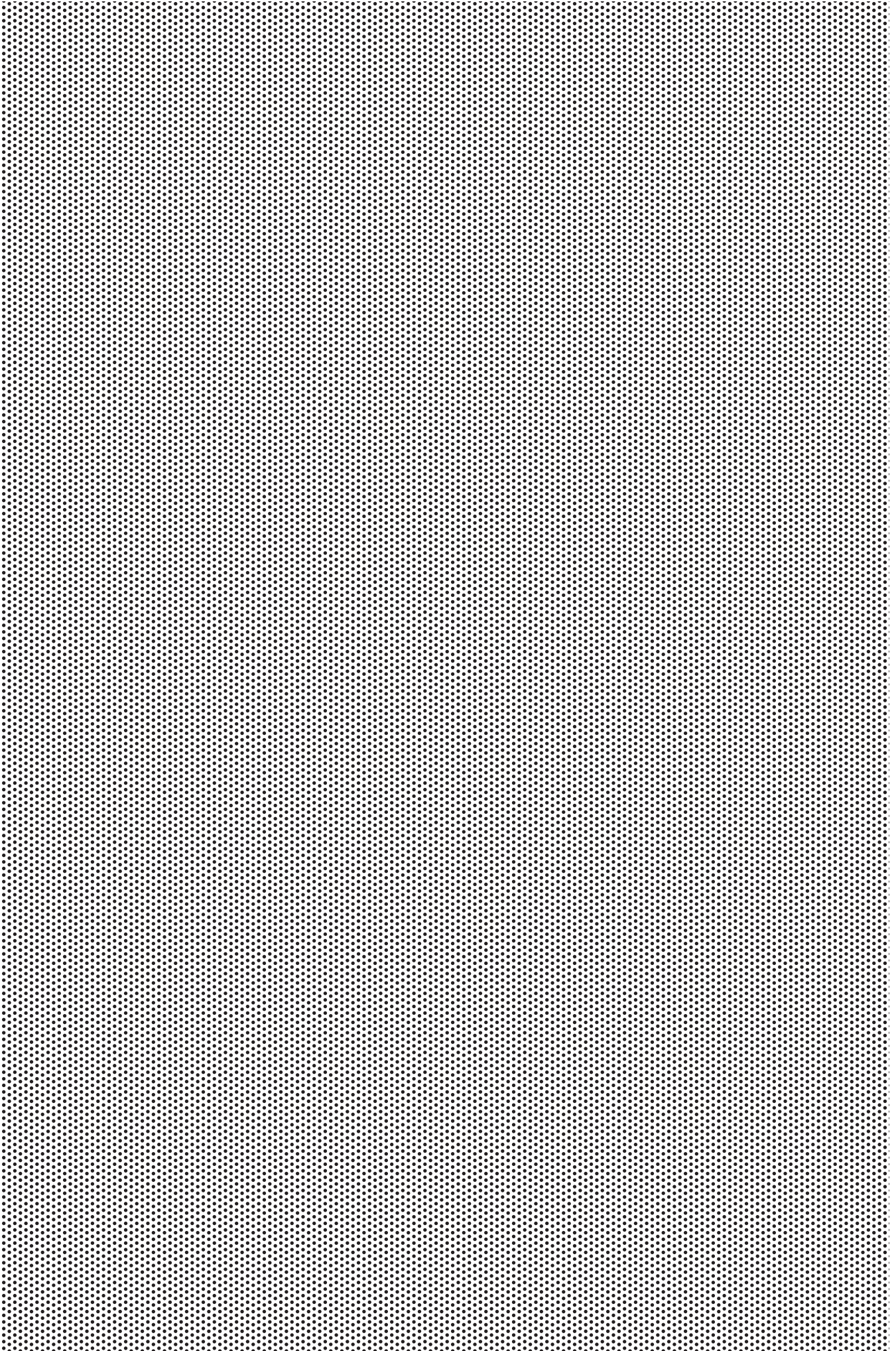
- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。
- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の（例）のように**アの解答欄の○b**をマークしてください。

（例）

ア	a	●	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



【共通問題】

第1問 運動領域及び競技の用語に関して，次の1～7の問いに答えなさい。

- 1 鉄棒運動における次の図の技を何というか。下のa～eから一つ選びなさい。

ア

- a 後ろ振り跳び下り
- b ふみ越し下り
- c 支持のり越し下り
- d 後ろ振り跳びひねり下り
- e 支持跳び越し下り

- 2 陸上競技のトラック種目においてフィニッシュを判定する次の図の点線で囲まれた※の範囲を何というか。下のa～eから一つ選びなさい。

イ

- a スパイン
- b ラングス
- c ハムストリング
- d トルソー
- e エルボー

- 3 次の文は、ダンスにおける用語を説明したものである。何の用語を説明したものか。
下の a～e から一つ選びなさい。 ウ

全員が同じ動きで同時に踊ること。

- a ユニゾン
- b シンメトリー
- c コントラスト
- d カノン
- e デフォルメ

- 4 次の文は、水泳のクロールのストロークにおいて、動きの局面の順序を示したものである。①～③に該当する名称の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

エ

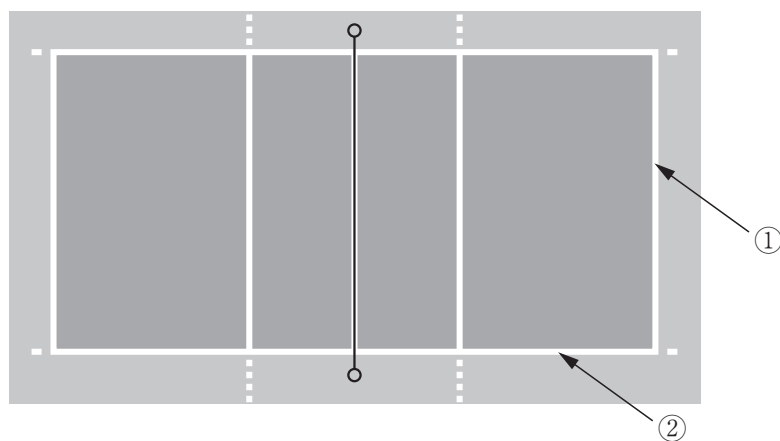
入水 → ① → ② → ③ → リカバリー

- | | | |
|----------|--------|--------|
| a ① プル | ② プッシュ | ③ グライド |
| b ① プッシュ | ② プル | ③ グライド |
| c ① グライド | ② プル | ③ プッシュ |
| d ① プル | ② グライド | ③ プッシュ |
| e ① グライド | ② プッシュ | ③ プル |

- 5 柔道において次の図のように、右組みと左組みで組み合っている状態を何というか。
下のa～eから一つ選びなさい。 オ

- a さばき
- b 蹲踞
- c てっぼう
- d 自護体
- e けんか四つ

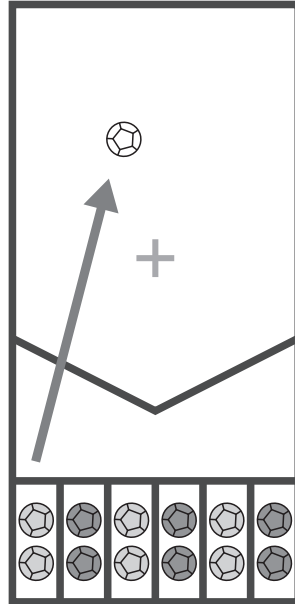
- 6 次の図は、バレーボールのコートを模式的に示したものである。①・②に該当する名称の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 カ



- | | | |
|---|-----------|-----------|
| a | ① ベースライン | ② タッチライン |
| b | ① エンドライン | ② サイドライン |
| c | ① サービスライン | ② タッチライン |
| d | ① エンドライン | ② アタックライン |
| e | ① サービスライン | ② サイドライン |

7 次の図は、ポッチャにおいて先攻のチームが、最初に見印になる白いボールを投げた状態を示している。この目印のボールを何というか。下の a ～ e から一つ選びなさい。

キ



- a ターゲットボックス
- b イクイップメント
- c ジャック
- d クロス
- e BNP

3 競泳競技の「平泳ぎ」のルールとして正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a スタートおよび折り返し後は、水中で一かきと一蹴りを行うことができる。
- b スタートおよび折り返し後は、最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライキックが1回許される。
- c 折り返しおよびゴールタッチは、両手が同時にかつ重ね合わされた状態で行わなければならない。
- d 両腕の動作は、スタート・折り返し後の一かきを除きヒップラインより後ろにかいてはならない。
- e 両腕の動作は、同時に、左右対称に行う。

4 次の文は、サッカーにおいて「ドロップボールによる再開」となるものについて述べたものである。正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a ボールが審判員に当たりゴールに入ったり、攻守が変わったり、新たな攻撃が始まった場合。
- b ボールの空気が抜けたり、破裂したりして、主審がボールの交換を指示したとき。
- c 観客や犬などの外的要因でゴールに入るボールが妨げられたとき。
- d 試合中にプレーヤーが重傷を負ったとき。
- e ペナルティーキックのときにゴールキーパーとキッカーが同時に反則をおかした場合。

5 ソフトテニスにおいて「プレーヤーの失ポイントとなる場合」として正しくないものを、次の a～e から一つ選びなさい。

- a ボールがネットポストの外側を回って相手コートに正しく入る。
- b 手から離れたラケットで返球する。
- c ラケット、身体、着衣などがネットやネットポストに触れる。
- d ボールが2度バウンドする前にラケットで返球できない。
- e 打球時にボールが2度ラケットに当たる。

6 陸上競技の「砲丸投げ」において、試技の際に無効試技となる場合として正しくないものを、次の a ～ e から一つ選びなさい。

カ

- a 投げた砲丸が着地する前に競技者がサークルを出る。
- b 砲丸を両肩を結ぶ線より後ろに持って投てきを行う。
- c 投てきを始めた後、体の一部が足留材の上部に触れる。
- d 投てき終了後、サークルの両側のラインよりも後方から出る。
- e 投てき後の砲丸が角度線外の地面か、角度線に触れる。

第3問 次の1, 2の問いに答えなさい。

1 運動の技能のポイントについて、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、バレーボールにおける「アンダーハンドパス」の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

ア

- a 両ひざを曲げる。
- b 肘を十分に伸ばす。
- c パスする方向にボールを当てる面を向ける。
- d 左右の腕（手首のやや上）に同時にあてる。
- e 体をのけぞるようにして両手を振り上げる。

(2) 次の文は、柔道における「右前回り受け身」の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

イ

- a 右足を一步踏み出す。
- b 右のひじと肩を前に出し、左手を畳につく。
- c 右肩を支点にして前に回る。
- d 左腕を体から約90度開いて畳を打つ。
- e 両足を交差しないように少し開いて畳につく。

(3) 次の文は、陸上競技における「ハードリング」の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。

ウ

- a 踏み切りでは、振り上げ脚の膝を引き上げた後、膝から下を振り出す。
- b ハードルを越える際、上体を前傾させる。
- c ハードルを越える際、抜き脚の膝を折りたたんで水平にリードする。
- d ハードルを越えた後、上体を前傾したまま振り上げ脚を伸ばして着地に向かう。
- e 着地では、抜き脚の膝を高く保つ。

- (4) 次の文は、ソフトテニスにおける「ボレー」(右手によるフォアハンド)の技能ポイントについて述べたものである。内容として正しくないものを、次のa～eから一つ選びなさい。 エ

- a 右足をしっかり踏み込む。
- b フラット面でボールをとらえる。
- c ラケットをやや後ろに引くように打つ。
- d ボールを打った後も面を残す。
- e 打球後は左足が踏み出される。

2 体育理論について、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、スポーツの発祥と発展について述べたものである。①～③の正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 オ

スポーツが経済との結びつきを強めるようになるにつれ、勝利が金銭的価値と等しいものと考えられ、スポーツの世界には(①)がはびこるようになった。また、オリンピックや世界選手権などの国際大会でのメダル獲得が国家的威信を示すものと考えられるようになると、勝つためには手段を選ばない勝利至上主義という考えが広まった。悪しき(①)と勝利至上主義がはびこるようになった現在、スポーツの(②)をおとしめ、スポーツの(③)や健全性を脅かす要因は少なくない。

- | | | | |
|---|--------|------|-------|
| a | ① 資本主義 | ② 価値 | ③ 公平性 |
| b | ① 商業主義 | ② 価値 | ③ 高潔さ |
| c | ① 資本主義 | ② 歴史 | ③ 高潔さ |
| d | ① 商業主義 | ② 価値 | ③ 多様性 |
| e | ① 商業主義 | ② 歴史 | ③ 公平性 |

- (2) 次の文は、練習とトレーニングの原則について述べたものである。①～③の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。 カ

練習やトレーニングの意義をよく理解し、目的をもって積極的に行う（＝ ① ）
 個人差をよく理解し、個人の特徴に応じた練習やトレーニングを行う（＝ ② ）
 体力の向上とともに、次第に運動の強さや量を高める（＝ ③ ）

- | | | | |
|---|-------|-------|-------|
| a | ① 意識性 | ② 個別性 | ③ 漸進性 |
| b | ① 反復性 | ② 特異性 | ③ 全面性 |
| c | ① 意識性 | ② 特異性 | ③ 漸進性 |
| d | ① 反復性 | ② 個別性 | ③ 漸進性 |
| e | ① 意識性 | ② 特異性 | ③ 全面性 |

- (3) 次の文は、豊かなスポーツライフに関するものである。①～③の正しい組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。 キ

「スポーツは、自発的な運動の楽しみを基調とする人類共通の（ ① ）である」といわれている。豊かなスポーツライフの楽しさは、ほかの（ ① ）領域と同様に「みる」「支える」「知る」といった多様な（ ② ）を通じてもたらされる。豊かなスポーツライフを実現していくためには、スポーツという（ ① ）が社会の中でどのように受け入れられ発展してきたのかを理解し、その（ ③ ）を大切にしていくなが必要がある。

- | | | | |
|---|------|---------|------------|
| a | ① 文化 | ② 発展の仕方 | ③ アクセシビリティ |
| b | ① 遊戯 | ② かかわり方 | ③ サステナビリティ |
| c | ① 文化 | ② かかわり方 | ③ アクセシビリティ |
| d | ① 遊戯 | ② 発展の仕方 | ③ アクセシビリティ |
| e | ① 文化 | ② かかわり方 | ③ サステナビリティ |

第4問 次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の文は、労働災害と健康について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

- ① 労働中の事故は、働く人自身の不適切な行動（不安全行動）や、滑りやすい床をそのまま放置するなどといった不適切な状態（不安全状態）が関係して発生する。
- ② VDT障害とは、騒音を長時間聞きながら作業することにより、首や肩の痛み、頭痛などの症状があらわれることを指す。
- ③ 精神障害は、近年、労働災害としての認定数が減少している。
- ④ 労働災害を防ぐには、作業形態や作業環境を改善するなどの安全管理と、労働者を対象としておこなう健康管理が必要である。
- ⑤ 安全管理者は、作業形態の管理を行うことを求められるが、作業環境の管理をおこなう必要はない。

a ①と④ b ①と⑤ c ②と③ d ②と⑤ e ③と④

2 次の文は、飲酒と健康の関係について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

- ① アルコールには、脳の働きを促進する作用がある。
- ② アルコールは血液に溶けて肝臓に運ばれ、分解される。
- ③ アルコールの量が増えると判断力や体の動きが鈍くなり、転倒・転落や「イッキ飲み」にともなう慢性アルコール中毒による死亡など、さまざまな問題を起こす。
- ④ 長期にわたり大量に飲酒すると、アルコール依存症になることがある。
- ⑤ 血中のアルコール濃度が0.5%を越えると千鳥足になったり、呼吸が速くなったりするなどの強い酩酊状態になる。

a ①と② b ②と④ c ③と④ d ③と⑤ e ④と⑤

3 次の文は、安全な社会の形成について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下の a～e から一つ選ばさい。 ウ

- ① 多数派同調性バイアスとは、危険が身に迫っていても、正常の範囲にとらえようとする心の動きを指す。
- ② 災害発生時には、自分が率先避難者になることで周囲の命を救うことにつながる。
- ③ 正常性バイアスとは、周囲の集団と同じ行動をとろうとすることを指す。
- ④ 災害発生時に被害を最小化するための取り組みを減災と呼ぶ。
- ⑤ 事故や災害が発生した場合には、自分や家族の命を守る行動（自助）と周囲の人々が協力して助け合う行動（公助）と行政機関などの救助や支援（共助）が必要である。

a ①と② b ①と③ c ②と③ d ②と④ e ④と⑤

4 次の文は、環境と健康に関わる対策について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下の a～e から一つ選ばさい。 エ

- ① 廃棄物は、一般廃棄物と産業廃棄物に分けられる。
- ② わが国では環境汚染による健康被害を防止するために、汚染物質の排出基準を設けて基準を超えないようにするなど、健康基本法にもとづく対策がとられている。
- ③ 汚染物質である「PCB」とは、ポリ塩化ビフェニルの略であり、皮膚や粘膜・肝臓の障害を引き起こす。
- ④ アスベスト（石綿）は、肺がんや中皮腫などの病気を引き起こす危険性が指摘され、品質改良を経て、現在も新たにつくられる建物の断熱材などに使用されている。
- ⑤ 土壌汚染の状況の把握、土壌汚染による健康被害の防止を目的として、2012年に土壌汚染対策法が制定された。

a ①と③ b ②と③ c ②と④ d ③と④ e ④と⑤

5 次の文は、欲求やストレスへの対処及び精神疾患について述べたものである。正しいものの組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

オ

- ① ストレスの原因となる刺激をストレッサーという。
- ② 欲求の種類には、「自分の能力を発揮したい」や「集団に入りたい」などの生理的欲求と「飲食」「休息・睡眠」「生殖」などの社会的欲求がある。
- ③ 精神疾患の治療には、抗うつ薬や抗不安薬などによる薬物療法のみがある。
- ④ デイケアとは、病気や障害のある人が自宅で療養生活を送れるように、看護師などが訪問して看護を行うサービスである。
- ⑤ リラクセーションの方法を身に付けることは、ストレスによる心身の負担を軽くすることに効果がある。

a ①と② b ①と③ c ①と⑤ d ②と④ e ②と⑤

【選択問題 中学校】

第5問 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編について，次の1～6の問いに答えなさい。

- 1 次の文は，「第2章 保健体育科の目標及び内容 第1節 教科の目標及び内容 1 教科の目標」の一部である。文中の ・ に該当する語句を，それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ， ，合理的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し スポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- a 主体的に判断し b 経験を生かし c 他者と協働し
d 問題を指摘し e 課題を発見し

- a 持続的な b 楽しい c 豊かな d 合理的に e 安全に

- 2 次の文は，「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 D 水泳〔第1学年及び第2学年〕（1）知識及び技能 ○技能〔泳法〕 イ 平泳ぎ」の一部である。文中の に該当する語句を，下のa～eから一つ選びなさい。

イ 平泳ぎ

長く泳ぐとは，余分な力を抜いた，大きな推進力を得るための手の動きと安定した推進力を得るための足の動き，その動きに合わせた呼吸動作で，バランスを保ち泳ぐことである。

指導に際しては，平泳ぎの距離は， 程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。

- a 25～50m b 25～100m c 50～100m d 50～200m
e 100～200m

- 3 「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕
2 内容 G ダンス (1) 知識及び技能 ○技能 ア 創作ダンス」において, [第1学年及び第2学年]〈多様なテーマと題材や動きの例示〉ではAからEの5つが示され, [第3学年]〈表したいテーマと題材や動きの例示〉では, AからFの6つが示されている。第3学年で追加となるFとして正しいものを下のa～eから一つ選びなさい。

エ

- a 群(集団)の動き b 対極の動きの連続 c 多様な感じ
d はこびとストーリー e もの(小道具)を使う

- 4 次の文は,「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔保健分野〕 1 目標」の一部である。文中の オ・カに該当する語句を, それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

- (1) オ生活における健康・安全について理解するとともに, 基本的な技能を身に付けるようにする。
(2) (省略)
(3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し, カを営む態度を養う。

オ

- a 家庭 b 社会 c 学校 d 現代 e 個人

カ

- a 明るく豊かな生活 b 豊かなスポーツライフ c 明るい家庭生活
d 適切な生活 e 生涯スポーツ

- 5 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [保健分野] 2 内容 (3) 傷害の防止 イ 思考力, 判断力, 表現力等」の一部である。文中の ・ に該当する語句を, それぞれ下の a ~ e から一つずつ選びなさい。

傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し, 自他の危険の予測を基に, したり, を防止したりする方法を考え, 適切な方法を選択し, それらを伝え合うことができるようにする。

- a 安全に行動 b 危険を察知 c 安全を確保 d 危険を回避
e 避難場所へ移動

- a 事故の発生 b 傷害の悪化 c 事故の再発 d 傷害の発生
e 二次傷害

- 6 次の文は、「第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成 2 (7)」の一部である。文中の ・ に該当する語句を, それぞれ下の a ~ e から一つずつ選びなさい。

(7) 体育分野と保健分野で示された内容については, 相互の関連が図られるよう留意すること。

(省略)

- ・教科内における を実現する観点から, 体育分野と保健分野の関連する事項を取り上げる際, を適切に設定した年間指導計画を工夫する。

- a カリキュラム・マネジメント b 豊かなスポーツライフ c 適時性
d 生涯スポーツ e 健康の保持増進

- a 学習の継続 b 実生活との関連 c 実践力の向上
d 指導する時期 e 知識・技能の定着

【選択問題 高等学校】

第5問 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編の第1部 保健体育編について、次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第1節 教科の目標及び内容 1 教科の目標」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、 ，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し スポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- a 主体的に判断し b 経験を生かし c 他者と協働し
d 問題を指摘し e 課題を発見し

- a 持続的な b 楽しい c 豊かな d 合理的に e 安全に

- 2 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「体育」 3 内容 D 水泳 [入学年次] (1) 知識及び技能」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下のa～eから一つずつ選びなさい。

(1) 次の運動について，記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに， に泳ぐこと。

ア (省略)

イ (省略)

ウ (省略)

エ (省略)

オ 複数の泳法で泳ぐこと，又は をすること。

- a 合理的 b 積極的 c 経済的 d 効率的 e 協働的

- a 着衣泳 b リレー c ターン d メドレー e 水球

- 3 次の文は、「第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容 「保健」 3 内容 (3) 生涯を通じる健康」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選びなさい。

ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。

(ア) 生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の 及び環境づくりが関わっていること。

(イ) 労働と健康

労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や などを踏まえた適切な 及び安全管理をする必要があること。

a 健康資源 b 環境要因 c 健康状態 d 環境設定 e 健康管理

a 職業病 b 精神疾患 c 生活習慣病 d ストレス e 慢性疾患

- 4 次の文は、「第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画作成上の配慮事項 3 「体育」及び「保健」 (2) 障害のある生徒などへの指導」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a ～ e から一つずつ選びなさい。

(6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を に行うこと。

障害者の権利に関する条約に掲げられた システムの構築を目指し、児童生徒の自立と社会参加を一層推進していくためには、通常の学級、通級による指導、小・中学校における特別支援学級、特別支援学校において、児童生徒の十分な学びを確保し、一人一人の児童生徒の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要がある。

高等学校の通常の学級においても、発達障害を含む障害のある生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である。

- a 計画的、組織的 b 積極的、協働的 c 合理的、効果的
d 個別的、視覚的 e 指導的、支援的

- a 情報ネットワーク b 持続可能な教育 c ICT教育
d インクルーシブ教育 e 教科横断

- 5 次の文は、「第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 第2節 内容の取扱いに当たっての配慮事項 5 「体育」と「保健」の関連」の一部である。文中の ・ に該当する語句を、それぞれ下の a～e から一つずつ選りなさい。

(5) 「体育」と「保健」で示された内容については、相互の関連が図られるよう、それぞれの内容を適切に指導した上で、学習成果の関連が実感できるよう留意すること。

(省略)

・教科内における を実現する観点から、体育と保健の関連する事項を取り上げる際、 を適切に設定した年間指導計画を工夫する。

- | | |
|-----------------|--------------|
| a 生涯スポーツ | b 豊かなスポーツライフ |
| c カリキュラム・マネジメント | d 適時性 |
| e 健康の保持増進 | |

- | | | |
|----------|------------|----------|
| a 学習の継続 | b 実生活との関連 | c 実践力の向上 |
| d 指導する時期 | e 知識・技能の定着 | |

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。

文中の ～ に当てはまる語句を下の1～9から一つずつ選びなさい。

③ 合理的配慮の決定方法・提供

(中略)

合理的配慮は、子供一人一人の障害の状態等を踏まえて教育的ニーズの整理と必要な支援の内容の検討を通して、個々に決定されるものである。(中略)

これを踏まえて、設置者及び学校と本人及び保護者により、 を作成する中で、発達の段階を考慮しつつ、次の「④合理的配慮の観点」を踏まえながら、合理的配慮について可能な限り を図った上で決定し、提供されることが望ましい。その内容は、 に明記するとともに、個別の指導計画においても活用されることが重要である。

④ 合理的配慮の観点

合理的配慮については、個別の状況に応じて提供されるものであり、これを具体的かつ網羅的に記述することは困難であるが、中央教育審議会初等中等教育分科会報告においては、合理的配慮を提供するに当たっての観点を、①，②支援体制，③施設・設備について類型化した整理が試みられている。

- | | | | |
|---------|-------------|--------|-----------|
| 1 教材・教具 | 2 年間指導計画 | 3 合意形成 | 4 指導要録 |
| 5 効率化 | 6 個別の教育支援計画 | 7 課題解決 | 8 教育内容・方法 |
| 9 障害特性 | | | |

2 次の文は、令和5年3月に厚生労働省より示された「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会 報告書」の一部である。

文中の エ ～ ク に当てはまる語句を、下の a ～ d からそれぞれ一つ選びなさい。

強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、エ 起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている「オ」である。

(中略)

カ によって平成13年に採択されたICF（国際機能分類）では「障害」の背景因子について、キ 因子と環境因子という観点から説明されている。ICFにおける環境因子とは「物的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境の特徴が持つ促進的あるいは阻害的な影響力」とされ、強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉スペクトラム症の特性などキ 因子と、どのような環境のもとで強度行動障害が引き起こされているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因をク していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

- | | | |
|---|------------|-----------|
| エ | a ごく稀に | b 夜間に集中して |
| | c 著しく高い頻度で | d 一時的に |

- | | | |
|---|------|--------|
| オ | a 障害 | b 重複障害 |
| | c 疾病 | d 状態 |

- | | | |
|---|----------|--------|
| カ | a UNESCO | b WTO |
| | c WHO | d IAEA |

- | | | |
|---|-------|-------|
| キ | a 心理的 | b 行動的 |
| | c 発達 | d 個人 |

- | | | |
|---|------|------|
| ク | a 発見 | b 決定 |
| | c 把握 | d 調整 |

3 次の文は、「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示） 第1章 総則 第3節 教育課程の編成」の一部である。

文中の ケ ～ ス に当てはまる語句を下の a ～ d からそれぞれ一つ選びなさい。

カ 知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部においては、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、道徳科、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、ケ 児童に履修させるものとする。また、コ については、児童や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

キ 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部においては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及びサ の各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、ケ 生徒に履修させるものとする。また、シ については、生徒や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

ク 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科のス を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものとする。

ケ

- | | |
|---------|--------|
| a 特定の | b 全ての |
| c 特性のある | d 希望する |

コ

- | | |
|-----------|-------------|
| a 外国語活動 | b 総合的な学習の時間 |
| c 日常生活の指導 | d 社会及び理科 |

サ

- | | |
|----------|---------|
| a 技術・家庭 | b 職業 |
| c 生活単元学習 | d 職業・家庭 |

シ

- | | |
|---------|-------------|
| a 外国語活動 | b 情報 |
| c 外国語科 | d プログラミング活動 |

ス

- | | |
|----------|-----------|
| a 見方・考え方 | b 段階に示す内容 |
| c 学年の目標 | d 配慮事項 |

- 4 次の表は、令和5年度の高知県公立特別支援学校中学部，高等部（専攻科を含む）卒業生の進路状況をまとめたものである。

表中の下線部①，②の説明として正しいものを，下のa～eからそれぞれ一つ選びなさい。

	福祉的就労						その他
	①就労継続支援		就労移行	療養介護	②生活介護	自立訓練	
	A 型	B 型					
高等部卒業者数	6	46	2	0	20	1	57

- a 医療と常時介護を必要とする人に，医療機関で機能訓練，療養上の管理，看護，介護及び日常生活の支援を行うサービス
- b 一般企業等での就労が困難な人に，働く場を提供するとともに，知識及び能力の向上のために必要な訓練を行うサービス
- c 常に介護を必要とする人に，昼間，入浴，排せつ，食事の介護等を行うとともに，創作的活動又は生産活動の機会を提供するサービス
- d 一般就労に移行した人に，就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行うサービス
- e 一人暮らしに必要な理解力・生活力等を補うため，定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し，必要な支援を行うサービス

- ①

セ

- ②

ソ

